



セブンスデーアドベンチスト石川教会付属石川三育保育園

新春を寿ぎ謹んでお慶びを申し上げます。

保護者の皆様にとって、迎えた新しい年が神の恵みに満ち溢れる一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

数あるお正月の風物詩の中にあつて、古くから親しまれてきた「初夢」があります。新年のある夜、元旦から3日の間に見た夢が「初夢」となるようです。特に、「初夢」で見ると良いとされているものとして、「一富士、二鷹、三茄子」があげられます。これには色々な説がありますが、将軍職を退いた後駿河国（現在の静岡県中央部）で暮らしていた徳川家康の好きな物が、一番目に富士山、二番目に鷹狩り、三番目に初物のなすであった事から生まれた言葉だと言われています。これらが、良い夢として真っ先にあげられるのは、徳川家康のように好きな場所に住み、好きな事を行い、好きな食べ物がいただけるという生活にあやかりたいというのが、多くの人々の願いであるかもしれません。

ところで、夢分析の専門家によると、多くの人々が初夢にたくすのは、「新年になったことで、無意識にいま抱えている悩みや問題をリセットしたい、解決のための糸口を求めたい気持ちが働いて、それが、夢の中に現れる」と言うのです。とするならば、今抱えている悩みや問題が深ければ深いほど「初夢」にかける思いは大きく、夢の中に現れるということになります。「初夢」を見る人もいれば、「初夢」を見ない人もいるのは、この理由からなのでしょう。しかし、どうしてこのような「初夢」を見るのかについては、依然と不明のままです。皆様は「初夢」にどのような思いを抱いておられるでしょうか。

聖書に、古代の大国バビロン帝国（バビロニア）を治めていたネブカデネザル王が、ある「夢」を見たことが記されています。ネブカデネザル王が「夢」を見たのは、彼が国を治めて3年が経とうとしている頃で、依然として周りの敵対する国々の脅威は収まっておらず、彼の心中には様々な問題が山積していたと思われまます。驚くべきことに、このような時にネブカデネザル王に「夢」を与えたのは、この世界を創造された神でありました。ネブカデネザル王が見た「夢」は、金属でできた人の形をした像でした。この像は、彼の国から始まって、キリストの再臨以後にこの地上に実現される神の国に至る国々の存亡の預言を表していたのです。この「夢」を通して、神はネブカデネザル王に、あなたに国と力と勢いと栄えを与えて、人や動物を与えて治めさせたのは、私だと預言者ダニエルを通して明らかにされたのです。神は、「ネブカデネザル王よ。恐れてはならない。私があなただけを用いたのだ。」とお語りになったのです。

このネブカデネザル王の経験は、どうして「初夢」を見るかについての回答を与えているような気がします。それは、人間が悩みや問題の解決を本当に願う時、神が「夢」を通して働いて下さるということです。

「あなたがたのうち働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であつて、それは神のよしとされるところだからである。」ピリピ 2:13

石川三育保育園 園長 糸数 正義

